

今月の内容：新年にあたって／今月のトピックス／特集（米政策改革大綱について（要点））／南会津再発見（大桃の舞台）／年男・年女からひとこと／研修会・講習会等お知らせ

新年にあたって

福島県南会津農林事務所長 熊田 貞夫

明けましておめでとうございます。2000年に入り3年目となりました。

今年の干支は「ひつじ」です。眠れないときに、ひつじが1匹、ひつじが2匹、ひつじが3匹・・・と数えていると眠りにつけるそうですが、今年の「ひつじ」の効き目はいかがだったでしょうか。良い初夢を見たいでしょうか。

「しんぶんし」のように前から読んでも、後から読んでも同じ文章を「回文」と言うそうです。昔は、正月に初夢を見るため、七福神や宝物を積んだ帆掛け船の絵に「ながきよのとをのねぶりのみなめざめなみのりぶねのおとのよきかな」の回文歌を書き、枕の下に敷いて寝たそうです。さぞかし素晴らしい初夢を見たのでしょうか。

子供の頃、「ばく」が夢を食べると教えられました。中国の架空の動物で鼻は象に、形が熊に似ていて、人の「悪夢」を食うといわれています。

ストレスの多い社会です。せめて良い夢を見て、悪い夢は全て「ばく」に食ってもらい、この一年間、楽しく過ごしたいものです。

ところで、「夢」には、他に実現したい願いとか理想とかいう意味もあります。

夢は所詮、夢に過ぎない、見果てぬ夢で、夢に終わっ

てしまう、だから最初から見ない方が良いというのではあまりにも夢のない話になってしまいます。

昨年、ノーベル賞を受賞した田中耕一さんは企業で働く技術者にも、大きな「夢」を与えてくれました。これまでの発明、発見、創意工夫は常にこうあってほしい、なってほしい、出来たら良いなという願望や期待、すなわち「夢」があって、初めて実現してきたものばかりです。

手塚治虫の漫画「鉄腕アトム」を見ても、ロボットが話をし、歩き、空を飛び、自分で考えて行動することなど、夢物語であり、漫画の世界の出来事であったのが、今ではそのいくつか、すでに実現しつつあります。

夢を持つことは誰にも迷惑をかけるものでもありません。将来への願い、期待、やりたいことを夢として持っていれば、知らず知らずのうちに、それに向かって努力していくものであり、実現しなくても、何か満ち足りた気持ちになるのではないでしょうか。

皆さん、楽しい「夢」を見て、素晴らしい「夢」を持ち、心豊かに充実した一年としましょう！

今月のトピックス

南会津地方園芸特産 振興大会開催

ふくしま21南会津地方園芸特産推進本部では、昨年12月18日に「消費者から求められる産地であり続けるために！」をテーマに南会津地方園芸

特産振興大会を開催し、管内の生産者を中心に関係機関も含め、約130名の参加がありました。

はじめに、「農を中核とした地域づくりの実践について」と題して、群馬畜産加工販売農業協同

(2ページに続く)



(1 ページから続く)

組合連合会常勤理事・販売本部長 黒澤賢治氏（前 J A 甘楽富岡営農事業部長）より講演をいただき、J A 甘楽富岡の革新的な取組みの紹介やこれからの時代に求められる園芸産地のあり方など、当地方に大きな示唆をいただきました。

次に、「青果物の流通と消費動向について」と題して、福島県経済農業協同組合連合会 園芸部長 梁川英臣氏より、現在の青果物の需給動向や市場で求められて

いる産地について報告をいただきました。

最後に、「環境にやさしい農業を考える」と題して、南会津地方におけるエコファーマー第1号の認定者である湯田浩仁氏より、エコファーマーとなった経緯やこれまでの取組みなどについて発表いただきました。

生産者の方をはじめ、関係機関等参加いただいた多くの方々には、消費者から求められる産地であり続けるために、今後の南会津地方の農業の進むべき道が見えたのではないのでしょうか。（農業振興部）

地域が取り組むグリーン・ツーリズム!

尾瀬をはさんで南会津とはお隣の群馬県の片品村は、J A を始めとした地域全体が主体になって取り組んでいる、グリーン・ツーリズムの先進地です。

今年の「南会津地方グリーン・ツーリズム推進大会」は、その J A 片品村から旅行センター長の永井光雄氏を講師にお招きして、去る12月18日（水）に田島町の建設会館で開催しました。



永井さんは、J A 片品村が農業観光に取り組み始めた昭和62年からずっと、片品村のグリーン・ツーリズムの先頭で活躍されている方で、講演は「『尾瀬を舞台とした J A 片品村のグリーン・ツーリズム』～地域が取り組むグリーン・ツーリズムについて～」という題で、片品村がグリーン・ツーリズムに取り組むようになった経緯、現在の取り組み状況、取り組んだことによる成果・課題や、地域でグリーン・ツーリズムに取り組むにはどうしたらいいか、片品村と南会津との連携のあり方についてお話いただきました。

参加者は各町村の農家、民宿・ペンション経営者など約60名で、講演終了後は盛んに質疑応答が行われ、地域の皆さんのグリーン・ツーリズムに対する意識の高さを感じました。

（地域農林企画室）

健全な食生活推進研修会を開催

健全な食生活推進研修会を、12月9日に下郷ふれあいセンターで開催しました。

これは、「食生活指針」に即して健全な食生活を推進するため、望ましい食料消費と食生活のあり方(日本型食生活)の基本である「食生活指針」を普及・啓発し、地域の食生活見直しの取り組みを促進するとともに、地域食文化の伝承と地域農産物の活用促進を図るために開催したものです。

研修会には17名が参加し、「食生活指針普及ボランティア」佐藤素子さんによる「食生活指針」についての説明、会津地鶏と地元食材を使った料理3品目の調理実習を行い、ご飯は福島県のオリジナル品種「ふくみらい」を試食しました。会津地鶏のうま味と歯ごたえは絶品です。



また、南会津保健福祉事務所主任栄養技師佐藤三佳さんを講師に招き「食と健康」と題して、日本人の健康状態・栄養状態や健康づくりのための食生活等についての講話をいただきました。日本人の栄養状態を見ると、カルシウム摂取量は不足で塩分摂取量はかなりオーバーしているとのことですので、注意したいものです。

（地域農林企画室）

間伐(雪損被害復旧)技術研修会を開催しました

南会津地方はここ数年、重い湿った雪による森林被害(樹木の幹折れなど)が発生しています。特に平成13年の降雪では、スギ人工林などが区域面積で41haの被害を受けました。

しかし被害地の復旧は、危険を伴う作業のためになかなか進まないことから、森林の持つ多様な機能が損なわれないように、研修会を開催しました。当日は、被害を受けた森林所有者や各森林組合など30名ほどが参

加し、下郷町ふれあいセンターで復旧のための助成措置、安全作業、複層林への誘導技術を説明した後、被害を受けた現地において、下郷町森林組合の協力を得て伐倒作業の現地研修を行いました。



参加者は森林被害の早期復旧や安全作業について改めて認識を深めていました。

（森林林業部）



去る12月3日に、米政策改革大綱が決定されました。今回の改革は、水田農業を取り巻く環境の変化に対応し、生産調整を中心とした米政策(減反政策)から脱却し、担い手農業経営者を主役とした消費者重視・市場重視の政策への転換を図るものです。

【改革目標の明確化】

「米づくりの本来あるべき姿」を平成22年度までには実現

食生活の変化の中で、増えている外食、中食需要に 대응しておらず、全体として米の需要量が減少



多様な需要に応じて、消費者が求める米の供給体制を構築

担い手の育成が遅れ、生産構造が脆弱



プロ農業経営者の成長・拡大を支援し、21世紀の食料安定供給体制を構築

平成20年度からは農業者・農業者団体が主役となる需給調整を国と連携して構築(18年度に移行への条件整備等の状況を検証)

国が県・市町村を通じて生産調整面積を配分することによって農業者には強制感



自主的・主体的調整体制に転換し、農業経営者の創意工夫を活かす

【生産構造の改革】

担い手の経営安定

価格の変動は、大規模な経営等担い手の経営に大きな打撃



プロ農業経営者が安心して水田農業にいそめ、積極的に挑戦できるようにセーフティネットを措置

担い手の育成

主業農家のシェア:水田の4割



平成22年にプロ農業経営者のシェア:水田の6割

【当面の需給調整システムの改革】

消費者ニーズ・市場動向を基にした調整方式への転換

減反「面積」を配分していることから、面積を達成しても実効性が挙げず米が余り、価格の低下が防げない。有機農業、直播などに取り組みにくい。



生産「数量」を調整する方式により、実効性を確実にする。併せて、豊作による過剰米について短期融資の仕組みを活用し主体的な販売環境整備を実施。消費者の安全志向、価格志向に応えた生産を促進。

地域の発想で水田農業の構造改革を進める助成体系の構築

地域の特性に関わりなく、全国一律でばらまきの批判がある助成体系



地方分権の新たな発想の下に、地域自らが考えて行動する水田農業の構造改革の取組に認められる助成の方式へ。この中で消費者が求める多様な農産物を、プロ農業経営者が中心となって効率的に生産・供給する産地づくりを推進。

【消費者と生産者が身近に感じられる流通制度の構築】

流通規制の緩和、消費者の安全・安心と表示の信頼性の確保、危機管理体制の設備

【水田の有効な利活用】

多面的機能の発揮・自給率の向上

なお、お問い合わせは南会津農林事務所農業振興部振興課(電話:0241-62-5253)までお願いします。(農業振興部)

南会津再発見



(伊南村農林課)

伊南村の最南部、檜枝岐村に隣接する集落が大桃集落です。この集落の中央に駒嶽神社があり、その境内の杉木立の中にひっそりと「大桃の舞台」が建っています。

火災で焼失し、明治28年7月に再建されたもので、明治40年までは大桃集落の人たちの習芝居が上演されていました。以後は買芝居を上演し、農村舞台の一典型をなすものとして重要であるとして、昭和51年8月に国の重要有形民俗文化財に指定されました。

舞台の中央部には固定式二重、二層機構の舞台があ

り、上の二重の前後には唐紙を入れることができるようになっています。その奥は二重下の面と同じ高さに床が張られていて、楽屋になっています。花道は上演時に設けられるようになっています。もとは舞台上手に張り出してゲザと呼ぶ太夫座が常設されていましたが、現在はなくなり、上演時に仮設されます。

ここで最後に歌舞伎が行われたのは、昭和46年のことでした。平成13年9月に大桃集落の人たちの歌舞伎を復活しようという熱意により、隣村の檜枝岐歌舞伎花駒座の協力で30年ぶりに「大桃の舞台」で歌舞伎が上演されました。村内外から立錐の余地のないほど観客が押し寄せ、大桃集落の老人は涙を流しながら、30年ぶりの「大桃の舞台」での歌舞伎に見入っていました。また、平成14年度は田島町の田島祇園祭子供歌舞伎保存会の歌舞伎が上演されました。

この大桃集落には、豊富で良質なお湯で有名な「小豆温泉」、3.5kmのロング&パウダーゲレンデで人気のスキヤーオンリーの「会津高原高畑スキー場」があります。

「伊南村さ、大桃さ、みんな来てけやれ。」

未年 年男・年女からひとこと

未年生まれの南会津農林事務所職員6人の方に今年の抱負を聞きました。



今年も健康管理に注意して、いろんなことにチャレンジしていきたいと思います。

森林林業部 坂本 敦史



長男、小学校入学。七年目の出産予定。年女と重なっていろんなことが訪れる年。ゆつくりと進んでいきたい。

農業普及部 佐藤 美季



今年こそは〇〇〇〇をやめようと思います。毎年そう思っているが、なかなかこれが手強いです。

地域農林企画室 円谷 正人



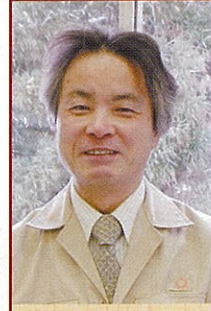
四度目の年男で有る！だいぶ体には自信がなくなってきた。急がずゆつくり健康に一年過ごしたい。

企画部 佐藤 雄一



五回目の田島で迎える未年。大自然南会津にて自然体に心の涵養と、体へのマイナスイオンの充電に励みたいと思います。

農村整備部 五十嵐 秀



昨年目標にしていた山歩きは、数えてみると会津朝日岳等僅かでした。今年こそはと今から楽しみにしています。

森林林業部 橋内 雅敏



～研修会・講習会等お知らせ～

内 容	月 日	場 所
①トラクタ基本運転(4)	2月17日(月) ～20日(木)	農業短期大学校(矢吹町)
②食材の色を生かした餅加工	2月19日(水)	農業短期大学校(矢吹町)
③トラクタけん引(2)	2月24日(月) ～27日(木)	農業短期大学校(矢吹町)

※お申込み・お問合せ先：南会津農林事務所 地域農林企画室 TEL 0241-62-5866
農業普及部 TEL 0241-62-5262



あて先 〒967-0004
福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1
南会津農林事務所 地域農林企画室
TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256
E-mail minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp
ホームページ http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/
みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真
(撮影:齋藤(敏))
大川と朝日(田島町)



古紙配合率100%再生紙を使用しています。

この広報紙は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。

